

日蓮は南無妙法蓮華經と唱る故に、二十余年所を追はれ、二度まで御勘氣を蒙り、最後には此山にこもる。此山の体

たらくは、西は七面の山、東は天子のたけ（嶽）、北は身延山、南は鷹取の山、四の山高きこと天に付き、さが（嶮）

しきこと飛鳥もとびがたし。中に四の河あり。所謂富士河・早河・大白河・身延河也。其中に一町ばかりの間の候に庵室

を結て候。昼は日を見ず、夜は月を拝せず。冬は雪深く、夏は草茂り、問人希なれば道をふみわくることかたし。

殊に今年は雪深くして人問ことなし。命を期として法華經計りをたのみ奉候に御音信ありがたく候。しらず、釈迦仏

の御使歟、過去の父母の御使歟と申すばかりなく候。南無妙法蓮華經、南無妙法蓮華經。